

令和 5 年度 第 3 回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閲覧用

1 開催日時 令和6年2月27日（火） 午後2時00分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
佐野卓也	委員	竹内和重	委員
吉本道明	委員[代理出席]	中西克之	委員
石田光	委員	畑敏幸	委員
井上栄純	委員	森口洋平	委員[代理出席]
木寺章	委員[代理出席]	長田貴	委員
和久明一	委員[代理出席]	清水徳幸	委員

委員13名出席

(オブザーバー)

馬方裕二郎 [代理出席] (兵庫県交通政策課主幹)
大木玲子 (丹波市商工会参事)

デマンド運行システム事業者

4 欠席者

蘆田長門	委員	小松忠重	委員
谷和義	委員	吉見和幸	委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

(1) デマンド(予約)型乗合タクシーの状況分析について

- ・「デマンド(予約)型乗合タクシーの運行状況」
- ・「デマンド(予約)型乗合タクシーの月別1日平均利用者数」

(2) 路線バス利用増進の取り組みについて

- ①令和5年度路線バス利用状況について
- ②路線バス通学定期券購入補助制度
- ③次世代を担う公共交通利用増進事業
中学3年生に路線バスICカード乗車券NicoPaを配布

(3) 鉄道の取り組みについて

JR加古川線の利用促進の取組み

4) 協 議 事 項

- (1) デマンド(予約)型乗合タクシー運行システムの更新について
- (2) 路線バス運行社会実験について
- (3) 令和6年度予算について

5) 閉 会

(事務局)

ただ今から、令和5年度第3回丹波市地域公共交通活性化協議会・丹波市地域公共交通会議を開催させていただきます。

本日、委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

[代理出席、欠席委員の報告]

[事務局より配布資料の確認]

〈事前配布資料〉

- ・会議次第
- ・デマンド(予約)型乗合タクシー関連資料
- ・路線バス関連資料
- ・JR 加古川線利用促進の取組について

〈当日配布資料〉

- ・デマンド(予約)型乗合タクシー新システム説明資料

本日の会議記録作成のため録音させていただきますので、ご了承ください。

それでは以降の進行につきましては、北川会長にお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

皆さん、こんにちは。本日もよろしくお願いいたします。

令和5年度最後の活性化協議会を開催させていただきます。

今回の会議については、前回の会議で路線バス社会実験について路線、停留所、実施の期間、運行時間、路線の休止についての協議をし、承認していただいた内容が関係各所との協議が終わり具体的な内容が決まりましたので、事務局からの報告があります。

そして、次年度予算の承認事項などが本日の協議事項、報告事項となります。

スムーズな会議進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは、まずデマンド(予約)型乗合タクシー(以下「デマンドタクシー」)の利用状況について、事務局から説明をお願いします。

〔(1)デマンド(予約)型乗合タクシーの状況分析について〕

(資料1)

(会長)

ただいまのデマンドタクシーの利用状況について、何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見等なし)

(会長)

運行をしていただいているデマンド会さんから何かございますか。

(デマンド会)

特にはないです。

(会長)

利用が1番多かった日が4月14日(金)の198人でした。利用の傾向を見ると、金曜日の10時便がご利用の多いときだと読み取れます。金曜日の10時便で50人を超す日が1年間で4日ありますが、どのような利用傾向があるか教えてください。例えば、旅行に行かれる方が多いや、地域的にはどこの利用が多いなど教えてください。そして、50人を超すということで、デマンドタクシーの運行が間に合っているかどうかも含め教えてください。

(事務局)

休日前の金曜日が多い傾向があります。また、前日の木曜日が運休日ということもあり、運休日の間といったことも利用が多い理由だと考えられます。

地域別についてですが、お手元に示しできる資料はありませんが、各地域ともご利用いただいています。

そして、この10時便はどの地域でも医療機関や買い物へのご利用が非常に多いです。

(会長)

事業者と協力し合って傾向や動向などについて分析していければいいと考えております。

いずれにせよ、決まって金曜日10時便の利用が多いので、利用者さんにとって一番需要があります。引き続き、8時便については相変わらず利用者が少なく、10時便をピークに3時便に向け徐々に利用者が少なくなっている傾向がわかります。この傾向はどこのデマンドでも同じようにあるので、私的にはこのような傾向になるだろうと思っております。

その他何かございますか。

(委員)

確認したいことが1点あります。

4ページの年度別利用者数の表についてですが、コロナ禍があったことで令和2年度は利用者数が減っていると事務局説明の際に言われていましたが、コロナ禍以前から平成28年度をピークに利用者は徐々に減ってきていることがわかります。コロナがある程度落ち着いてきている現在、利用者がコロナ禍以前の利用者数に比べて減っていることは、コロナ禍以外の理由があれば教えてください。

(事務局)

利用者数の減少傾向についてですが、コロナ禍以外に考えられることとして、単純に人口減少もあります。デマンドタクシーは利用者の大半が高齢者の方で、デマンドタクシー開始当初(平成22年度)は、高齢者の中で運転免許証を所持されていない方が一定数おられ、大勢の方にご利用をいただいていた。それから15年経過し、高齢になっても元気に自家用車を運転される方が多くおられます。あるいは、ご夫婦どちらかが免許証返納をされても、どちらかが運転免許証を所有されているため、お出かけの際にデマンドタクシーの利用に繋がっていないのが理由の一つだと考えられます。

資料に記載はありませんが、新規利用者数が減ってきていることが課題です。後程ご説明させていただく新システムとの関連の中で、新システム開発業者と取り組みを考えていきたいと思っております。

(委員)

現状、利用者が減ってきているので、デマンドタクシーだけの話だけではなく、他の公共交通の移動手段でカバーされているのかどうかを検証しなければならない。

利用者が減っているものの、移動手段の需要というのは当然あると思うので、他の移動手段でカバーされていればそれはそれでいいと思うが、考える必要があると思ったので発言させていただきました。

(会長)

利用者数を増やすということですが、利用者にとって使いやすさなどいろんな角度からのアプローチ方法があると思います。戦略を考えながら、コロナ禍前までの利用者数まで何とか戻したいところです。

人が動くということは、それだけ活性化することなので、そういった意識をもって取り組めればと思っています。

その他、質問などございますか。

(質問・意見等なし)

(会長)

続きまして、路線バスの利用増進取り組みについて、まず今年度の路線バスの利用状況について事務局から説明をお願いします。

〔(2) ①路線バス利用増進の取り組みについて〕

(資料3)

(会長)

ただいまの路線バス利用増進の取り組みについて、何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見等なし)

(会長)

それでは、バス運行事業者さんからお願いします。

(委員)

先ほど事務局から説明がありましたように、高校生等への路線バス通学定期券補助、山南中学校統合による遠距離通学バス利用によって、乗車率が上がったと考えております。

(会長)

好調ですが改めて確認すると、資料3の路線バスの年度別延べ利用者数の資料を見てください。平成20年度あたりから丹波市に携わってきましたが、当時は路線バスの利用者数がすごく多かったのですが、だんだんと利用者が減ってきました。

公共交通活性化協議会が発足し、協議会の中で策を考えていく中で、ダイヤ改正などのテコ入れを行いました。

そして、柏原病院が廃院となり、兵庫県立丹波医療センターの開院の際に、かなりのダイヤ再編を実施しました。

さらに、通学定期券補助や、学校の統廃合による通学支援ですが、これによって利用者数が増えました。これは綺麗に出ていると思うのですが、何か施策すれば利用者は増えますが、何もしないと利用者はだんだん減っていきます。この繰り返しはバスには非常に大事なことだということを私自身も発見がありました。人口減少の中でこれだけバスの需要が増えているということは喜ばしいことです。

何故かという生活スタイルとか、これからの丹波の暮らし方とか、そういうものが何か出ているのを感じ取れます。

ただし、ずっとこのままだと人口は減っていきますからまた利用も減っていきます。またどのような活性化策するのかを考える事を永遠にやっていかなきゃいけないので、ぜひ皆様のご協力を得ながら色々やっていければと思います。

何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見なし)

次に、路線バスの通学定期券購入補助制度、次世代を担う公共交通利用増進事業について事務局から説明をお願いします。

〔(2)②路線バス通学定期券購入補助制度、③次世代を担う公共交通利用増進事業〕
(資料4)

(会長)

かなり補助制度が整ってきていることがわかりました。
何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見等なし)

先ほどの説明で氷上西高校の生徒の中高一貫教育の通学費補助制度と、路線バス通学定期券購入補助制度の違いは何ですか。

(事務局)

氷上西高校に通われる生徒は、丹波市の教育委員会が実施している中高一貫教育通学費補助制度がございます。この制度は、定期券運賃月額8,000円を超える金額を補助している制度で負担額に差があります。

ただ、来年度以降はこの2つの制度を統合し、通学定期券購入補助制度で補助していくことになっております。すでに氷上西高校に在学中の生徒に関しては、引き続き中高一貫制度を利用していただき、新1年生から段階的に通学定期券購入補助制度に統合していく予定です。

(会長)

教育委員会とふるさと創造部の2つの窓口から、ふるさと創造部での路線バス通学定期券購入補助制度への統一補助という事ですね。

中学3年生等へのICカードの発行も進んできているようですので、鉄道事業者と路線バス事業者にご協力いただきながら、これを機会に増やしていければと思います。

何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見等なし)

それでは次は鉄道の取り組みとしてJR加古川線利用推進の報告をお願い致します。

〔(3) JR加古川線利用推進の取り組みについての説明〕

(資料別紙)

(会長)

加古川線の利用促進については、まちづくりと鉄道のコラボレーション等の共同対策がだんだんと進展してきていると感じております。事業補助費もいくつかメニューも揃ってきておりますので、来年度も期待したいと考えております。

何かご質問やご意見などございますか。JR関係、兵庫県の関係の方補足等はございますか。

(質問・意見・補足等なし)

それでは続いて、協議事項になります。まず、デマンドタクシー運行システムの更新についてですが、建設技術研究所さんが来られていますのでご説明等よろしくをお願いします。

〔（１）デマンドタクシー運行システムの更新について〕

（資料５、資料別紙）

〔システムの概要について説明〕

（事務局）

システムは、令和６年３月１日より更新します。

目的は、現在の電話予約に加え、２４時間対応の Web 予約による利便性向上、予約情報自動通知による利用者の予約忘れ等の不安解消、車両位置の把握による待つストレスの軽減になります。

周知方法は、直近１年間の利用者にはダイレクトメールにてシステム更新のお知らせを送付します。また市ホームページや、３月全戸配布の市広報紙や公共交通ガイド誌でご案内します。

デマンドタクシーの利用者は高齢者が多いため、Web 予約の導入で直ちに利用者増に繋がるわけではありませんが、デマンドタクシー新規利用者登録が減少傾向であるため、予約方法が多様化することにより、これまで利用の少なかった世代の関心を高め、利用の間口を広げていきたいと考えています。平成 23 年以降運行しているデマンドタクシーはたくさんの方に利用いただいております、市民の皆さまに定着しているので、運行形態は現行の通りで、引き続き安心してご利用していただけるよう案内してまいります。

〔システムの詳細についての説明〕

（デマンド運行システム事業者）

今回、丹波市様で運行されていますデマンドタクシーの予約配車システムを３月から担当させていただきますことになりました。よろしくお願いいたします。

各地域で、デマンド交通の重要性が高まっているところであり、予約配車システムを弊社の方でご提供して各地でお使いいただいている状況です。

システム概要をご説明します。車両の予約に基づき、どの車がどの順番で回ったらいいかとといったようなものを弊社のシステム内の AI（システム部分）で計算をし、その計画をドライバーにお伝えし、お客様を乗降させるといった流れのシステムになっております。

弊社が提供しているシステムを今回導入させていただきます。

システムの大きな構成ですが、５つに分かれており、１つは、ユーザーアプリです。利用者がお使いになるシステムのことです。今回はスマートフォンとパソコン等でアクセスできる Web アプリを提供して利用者にお使いいただきます。利用者がどこからどこに何時に移動したいのかというようなことをスマートフォンで入力していただくと、デマンド配車システムでまずは車両の空き状況等を踏まえ、その予約が受けられるかどうかを瞬時に返します。

デマンド交通の利用は高齢の方が多ということで、スマートフォンの操作がなかなかできないという方は従来通り電話でオペレーターの方に予約し、オペレーターが利用者の代わりにどこからどこに何時に出発して移動したいのかを入力し、同じようにデマンド配車システムでその予約を受けられるかどうかを判断いたします。

受け付けた予約については、配車システムで計算をしてドライバーアプリ、オペレーターの管理者用システムにその配車計画を送付いたします。

ドライバーはそのドライバーアプリで表示される送迎順に基づいて利用者を乗降させます。システムはすべてクラウドサーバー上で動きますので、管理者は自分のパソコンでこのシステムにログインすることで、車の運行状況、統計データのダウンロード等ができるようなシステムになっています。

導入により期待される効果は、従来の電話に加えてスマートフォン、パソコンから予約取得ができるようになるということで、予約受付時間内に電話をかけるというようなハードルがある部分の軽減を図れればと考えています。

２つ目は、今回の Web アプリ、スマートフォンでのアプリで、アカウント申請もできる形になっております。従来は紙の利用者登録票を各所に提出する形でしたが、Web アプリで申請できますので、申請のデジタル化に一つ寄与できると思っております。

3つ目は、通知サービスというものを合わせてご提供したいと考えております。2種類の通知があり、1つは「リマインド通知」です。丹波市の場合は、当日に予約される方が多いのですが、1週間前に予約をして当日予約を忘れてしまうというようなこともあり、予約を前日までにした方については、当日の朝にリマインド通知という、「今日予約が入っていますよ。」という通知を送るようになっていきます。

もう1つが5分前通知で、丹波市のデマンド交通につきましては、1時間1便運行ということで、1時間の中で送迎を終える形ですが、車が近づいてきてあと5分で到着する時にシステムから自動で利用者にお知らせするという機能をつけております。

通知については2種類の受け取り方があり、「自動音声通知」と「プッシュ通知」があります。

プッシュ通知の方は、「あと5分で着きます」や「今日予約が入ってます」というようなメッセージがスマートフォンに届きます。

自動音声通知は、登録している電話番号にシステムが自動で電話をかけて受けるという通知になっております。ですので、スマートフォンアプリを必ずしも入れなくても、ガラケーや固定電話の方もこういった通知のサービスを受けられるようになっております。ただし、固定電話の場合は外出先で受けられないことが注意点です。

最後に、Webアプリのアカウント作成の流れですが、市の広報誌のチラシやホームページで既にご案内いただいておりますけれど、Webアプリという形でご提供しております。Google PlayやApple Storeからダウンロードするというものではなくて、QRコード、URLからアクセスをするアプリケーションになっております。予約サイトにアクセスし、従来のWebアプリと違って、Google Playからダウンロードしたアプリと同じように、ホーム画面に追加をして使うことができるアプリとなっております。

アカウント情報を登録していただき、申請をし、アカウント申請が完了になります。利用者がアカウント申請した後で、オペレーターが自宅の登録等を行ってそのあと自宅を停留所として利用できるようになります。

次に予約取得の流れは、予約の方はWebアプリで出発地、目的地、運賃、日時等の予約内容を入れて、その予約が取れるか確認を行い、予約が取れるときは予約完了というような流れになります。

システム入れ替えのところについては交通事業者様にもいろいろご負担をおかけすることもあります。丹波市の公共交通にこういったところで貢献していければと考えておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

思えば平成23年以来デマンドを運行しておりますが、デマンドタクシーとしてはベテランの部類に入りますが、古くからおりますがこういった形で進行していくのは日本中どこでもあり得ます。今後お手本になるようなシステムにしたいと思っております。システムを説明していただきましたが、何かご質問とか、今のうちしっかり聞きたいとこなどございましたらいかがでしょうか。

(質問・意見等なし)

説明を聞いていたらそんな従来の運行から大きな変わりはないかなというふうに思いますが、大きな点は電話番号が変わる点ですね。

実際、システムが変わると今までの感触と、若干違ってくると思います。初動が大事になってきますので、できれば初動をしっかりと丁寧に大切にいただければと思います。

3月1日から始まりますがどのような、今のところのどのような体制として対応しようとしていますか。

(事務局)

今週末の3月1日からの運行開始ということで、まずオペレーターさんとドライバーさんにおきましては操作研修等を行って、新たなシステムに対応していただく形になります。今まで慣れ親しんだシステムを使われていますので、そこから変わるのにはオペレーターさんドライバーさんにとってもなかなか心配なところはあるかと思います。

運行初日は、システム事業者のスタッフの方がドライバーさん横の助手席に乗り利用のサポートをしていただき、デマンド予約センターにもスタッフの方に来ていただきサポートしていただくことで考えております。

また利用者の方につきましては、先ほど申しましたように電話等登録状況は異なる方もいらっしゃると思います。携帯電話を登録されている方、自宅の電話だけの方とかいろいろいらっしゃるため、それぞれ若干利用方法が異なってくるところもありますので、その方々に応じた利用案内を送付させていただきたいと思います。ご高齢の方ですのでWeb予約が始まると、もしかしたら電話予約ができなくなるのかというような心配をされる方等もいらっしゃるんですけども、運行形態そのものが変わるものではありませんし、電話で従来通りその辺の不安の無いようにこちらでも説明はさせていただきたいと思っております。

(会長)

システム事業者さんには何かありましたらすぐに対応していただきますようお願いいたします。

先ほどの利用者データにもありましたが、デマンド運行利用状況は金曜日の10時便が1番利用が多いのでいきなりピークの時ですが、そのピークを乗り越えられればまあまあ安心な部分があります。

何かご質問やご意見などございますか。

(委員)

この度、システムが新しくなることで説明がありましたが、利用者の利便性を考えた大変良い仕組みが導入されるのだと思っております。ただ、「5分前通知」は、ドライバーに焦りを発するじゃないかと、私どもは考えております。この仕組みの導入について、私どもに与えられた課題というような状況になっております。これについて、委員の皆さまで一度議論をお願いしたいと思っております。いかがですか。

(会長)

事務局サイドとしていかがですか。事実確認をしなければいけないところもあるのかもしれませんが。

(事務局)

今、ご指摘いただきましたことですが、確かに事前通知が行くということになりますと利用者の方にとっては、車両の到着時間がわかります。一方で、ドライバーさんについては、通知が利用者さんに届くことによって、その時間に急いで行かなくてはいけないプレッシャーが出てくるところがあるのかもしれない。

導入当初はなかなか難しいですけども、できるだけ効率的な運行ができるようにしたいと思っております。

どうしても予約時間の縛りがあって、ドライバーさんが大変なところが出てくるかもしれませんが、効率的に回れるようにさせていただきたいと思っておりますのでご協力いただきたいと思います。

(会長)

システムってやっぱり改善ありきです。だから、最初は実験のようになってしまいます。そこでドライバーが「5分前通知」をかなりプレッシャーに感じるという話だとそれはそれでまた改善しないといけません。

ちゃんと声を聞いてくれるシステムは整っているということ、デマンド会もその1つだと思うのです。やっぱり現場と少し相違するってことがあるので、そこをしっかりとフォローしながらお互い使いやすいようなシステムに変えていく可能性もあると思います。これで決定という話ではなく、よりよいシステムを作っていくという気持ちでやっていかないと最初はしょうがない部分があると思います。

最初の1日乗るぐらいですから何が起こるかわからない。また、そのフィードバックを含め、しっかり整えていくということをやった、この協議会の中でもやらなきゃいけない。問題提起は引き続き、いつでもしていただけたらいいと思います。

やってみなければわからないものについては事務局とデマンド会の対応の中でいろいろと修正をかけるとか、またお知らせいただきながら、やっていこうという形が望ましいのではないかと思います。

利用者にとっては便利なことでもドライバーにとっては本当にプレッシャーになるかもしれないですし、いざやってみたらお互いよかったという話になるかもしれません。逆にいうと、早く来てくれた、と通知より早いかもしれませんし良い方に行くかもしれません。本当にやってみないと分からないと思います。

その他、何かご質問やご意見などございますか。

(質問・意見等なし)

このシステムは、国内で似たような地域で運用されているということです。全く初めてということでもなさそうです。ただ、デマンドは地域、運用するところによって制約条件かなり違います。ある町は、バス路線のある程度の部分は使わないようにしようとかそんなものもありますし、他のところで丹波市に近い形で行っているところもありますし、それから車の台数も制約があって、2～3台とか20台とかいろいろあります。

今回は丹波市の中でこうやっていくってことと、AIシステムってデータがそろわないと検証できません。最初の1年くらいは慣れてくるのに時間がかかるかなというふうに私自身は思っています。大体数万件ぐらいのデータが揃ってくると、学習して良くなっていくというシステムになりますので、最初はやっぱりシステム上混乱する可能性があるので、そういうところはぜひ、みながらやっていかなければと思います。

最初にもうこれだなという、決めつけではなくて長期的な視点で見なければいけないという部分もあるかと思います。

今日いきなり議論はしばらくのところではありますが、何かありましたら、また今後の課題の中で、議論していくという事でお願いします。

それでは次は、路線バス運行社会実験についてです。これも前回の協議会の中では社会実験します、わかりました、というところで終わっていましたがその内容も決まったようですので協議したいと思います。

〔(2) 路線バス社会実験について〕

(資料6)

(会長)

皆さんわからないところ、思うところがあると思うんですけど、今回の社会実験のポイントを改めて確認すると、野瀬線については活性化を願いつつ、市島地域は通学をしっかりと保ちながら、医療センターへアクセスができる等の3つぐらいの目的があるという社会実験です。

駅へのアクセス、学校へのアクセス、医療センターへのアクセス、それに応じて帰りの便もあ

ります。かなり生活上は便利なものになるように、ダイヤもいろいろ考えていただいたのではないかと思います。

社会実験といいましたが、今回は1学期間で学校に合わせてやりますというところもポイントなのではないかと思います。開始が4月1日から7月31日、今のところモニターも中学生と高校生募集をしているというところです。

これについては、神姫バスさんの方からも何かありますか。特にテスト運行といいますか、一応走らせて確認しながらになるので大変だと思いますがよろしくお願ひしたいと思います。

このバスの社会実験につきまして、詳細が出てきましたが確認事項とか、それからご質問含めてお聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。

(質問・意見等なし)

モニターの募集を2月20日に締め切られましたが、中学生、高校生何名ずつですか。

(事務局)

中学生は17名、高校生は18名で、合計35名で開始する予定となっております。

(会長)

確認しておきたいのですけれど、特に中学生17名ですね、例えば社会実験の運行時間表で言うと、ケースとしてはどこで降りるところが考えられるのですか。

(事務局)

中学生につきましては、春日中学校の生徒が対象になっております。始発の野瀬の辺りが春日地域の大路地区になります。

この地区の方は今まで自転車通学されていたり、片道6km以上で遠いと8km以上になる生徒さんもおられたり、場合によっては学校まで保護者の方が送迎されているという状況でありました。

一方で野瀬線は現在、春日中学校前のバス停を通過しているという状況ですので、これは通学に有効利用していただくということで、今回モニターとして通学定期券を配布してご利用をご案内しております。

(会長)

高校は色々あると想定しています。医療センターには大体9時頃に到着する運行ということですので。

これから中学校は新学年シーズンになってきますので、ちょうどいいタイミングだと思います。まだ情報調査その結果等、わかりましたら逐一報告よろしくお願ひいたします。

それでは次の協議事項ですが、予算関係です。令和6年度の予算についてご説明よろしくお願ひいたします。

〔(3) 令和6年度予算について〕

(資料7)

(会長)

移動交通の経費は、どこもかかっていますから致し方ないかとは思ひます。燃料代の高騰とか、実験によって色々あるとは思ひのですが、あとはデマンドの仕様を変えたという話もあります。それと今までなかった国からのフィーダー補助というのは、来年度から入れるという形になるかと思ひます。

執行予算について、何かご質問やご意見などござひますか。

(質問・意見等なし)

では、ご承認いただいたということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

そろそろ終わりになりますけれどもその他につきましては、次回開催も含めて事務局からお願いします。

〔その他〕

(事務局)

令和5年度の地域公共交通活性化協議会につきましては、今回の会議で最後となります。1年間ご協力いただきましてありがとうございました。

新年度につきましては委員の皆様方の交代等も想定されますので、また4月以降に事務局より確認させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。また、委員の皆様には新年度第1回目の会議につきましては、先ほど会長が言われました通り、6月ないし7月上旬を想定しておりますので、開催案内を日程調整の上でさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(会長)

それではそろそろ、閉会が近づいていますが、何かありますか。

(意見等なし)

それでは、閉会のご挨拶を大野副会長にお願いして終了します。

(副会長)

今年度の3回目の活性化協議会という事で長時間にわたり慎重に議論いただきましてありがとうございました。ほとんどが報告事項であったと思いますが、また何かありましたら担当課の方へ積極的にご連絡いただければと思います。これで協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。